令和7年度

石井町藍畑小学校「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

・子どもの気づきを大切にし、基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・判断力の向上を図り、分かる喜びを大切にした楽しい授業を工夫する。
・ICT機器を活用し、言語活動の充実と、基礎・基本の徹底により学びを定着させる。
・児童同士の学び合いを大切にし、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指す。
・読書活動の推進により語彙力・想像力を向上させ、豊かな心を育てる。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭　鋳形美絵（第6学年担任）（高学年担当）	校長　下窪耕司　　教頭　清重正俊 教務主任　教諭　井上明　研修主任　指導教諭　武市由美 教諭　三澤成美（中学年担当） 教諭　中南香菜（低学年担当）

校長　下窪　耕司

◎次の（1）～（3）をバランスよく取り組み学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】管理職による授業参観や教員による報告等、様々な機会を捉え、情報交換や状況把握を行う。

（1）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○どの学年も落ち着いて学習に取り組み、与えられた課題にまじめに取り組むことができる児童が多い。 ○ICT支援員の協力を得て、タブレットの基礎的な操作のスキルが身に付いている。デジタル教科書の活用の仕方を学んでいる。 ●既習事項を生かした応用問題に苦手意識をもつ児童が多い。 ●長文の読解力が弱く、話を聞いて内容を把握することに課題がある。	・アンケートで「授業は分かりやすく楽しい」と答える児童を90%以上にする。 ・ICT機器を活用し、個々の能力に合わせた知識・技能の習得や、応用問題に取り組むことができる。 ・文章の内容を正確に読み取ったり、話をよく聞いて、内容を把握したりできる。	・子どもの気づきや分かる喜びを大切にし、楽しい授業を工夫する。 ・タブレット端末を、授業や家庭学習で積極的に活用するようにし、個々の能力に合わせた学習内容を提示する。 ・基礎・基本の徹底だけでなく、既習事項を生かした応用問題や、日常での活用などを授業に取り入れる。 ・日記指導や作文指導により、基礎基本の習熟を図り、文章力の向上につなげる。	・既習事項を生かして、思考を深めたり、発言したりする児童を育てることにより、楽しい授業づくりにつながっている。 ・SAMRモデルのどの段階の授業ができているのかを確認し、目標を設定して取り組む。 ・ただ単に書かせるのではなく、思考力、表現力を高めることを意識し、目的や意図を明確にした書く学習活動を実践する。	・アンケートで「授業は分かりやすく楽しい」と答える児童は、88．6%と目標を概ね達成できた。引き続き、授業研究を続けたい。 ・「相手意識・目的意識」「めあて」と「ふりかえり」を明確にした授業づくりを実践することにより、学びを確かなものにできた。しかし、定着にかかる時間が十分確保できなかった。 ・SAMRモデルのM段階を達成できるように積極的なICT活用を目指した。しかし、場合によってはS、A段階にとどまることもあり、さらなる研修が必要であった。さらに・授業や家庭学習でICTを有効活用し、個々の知識・技能の向上に努めた。	・ICTを活用した実践を紹介し合い、より効果的に活用する。また、どの場面で、どの方法でICTを活用すると効果的かという教材研究を行い、研修に力を入れる。 ・書く機会が減ったことにより、文章力の定着に課題が残っている。自分が伝えたいと思う魅力的なテーマを設定し、書くことに対する意欲を高める。日記指導や作文指導により、基礎基本の習熟を図り、文章力の向上につなげる。

（2）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○答えを発表したり、文章を声に出して読んだりすることのできる児童は多い。 ○調べ学習や体験的な学習で考えを深める児童が多い。 ●自分の考えを根拠や例を挙げて話したり、自信をもって伝えたりすることに課題がある。	・根拠や理由を明らかにして、自分の考えを表現したり、自分と友だちの意見を比べながら聞いたりできるようにする。 ・アンケートで「進んで自分の考えを発表したり、話し合ったりしている。」と答える児童を85%以上にする。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を行う。 ・児童の発言や発表の内容に「なぜ」「どうして」など、思考を深める発問を行うなど、豊かな言語活動が展開されるようにする。 ・体験学習を重視し、テーマに向かって学習活動を展開していく単元を構想する。	・一斉授業が多いため、対話的で深い学びができているか、学習形態の工夫を見直す。 ・児童用タブレットを効果的に活用し、個に応じ、学び方の多様化を図る。 ・体験的な学習を取り入れ、児童の学習意欲を高め、児童同士、児童と教師、児童と家庭、地域等とのかかわりを大切にしていく。	・タブレットを用いることで、伝えたい内容を整理して発表したり、思考ツールを友達と見比べながら考えを深めたりすることができた。 ・アンケートで「進んで自分の考えを発表したり、話し合ったりする。」と答える児童は、76．4%と目標を達成できなかった。タブレットを用いた学習形態についての見直しを行ったり、発表場面を増やしたりして改善したい。	・様々な授業でタブレットを有効に活用する。 ・「なぜ」「どうして」「どのように」などの問いかけにより、思考が深まる授業づくりに努める。 ・個別、ペア、グループなどの学習形態を多様化し、主体的で対話的な学びの場を設定する。

（3）主体的に学ぶ態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ほとんどの児童が毎日宿題を提出しており、授業中も真面目な態度である。 ○学習に対して、前向きに取り組み、よく聞き、考える児童が多い。 ●応用問題に、粘り強く取り組むことのできる児童や自主学習に取り組む児童が少ない。 ●読書習慣の定着が十分でなく、図書室の利用がほとんどない児童が多い。	・基礎・基本の問題だけでなく、応用問題や教科書に載っていない読解問題などにも最後まで取り組むことができる。 ・読書習慣を身に付け、前後期ともに、低学年50冊、中学年40冊、高学年30冊の目標を達成する児童を80%以上にする。	・各教科の学習や家庭学習に、基礎・基本の問題だけでなく、応用問題や教科書に載っていない読解問題などを取り入れる。 ・グループやペアなどで、あるテーマについて意見を出し合う学習活動を多く取り入れる。 ・読み聞かせや図書委員による読書冊数の表彰に加え、イベントを行い読書への興味関心を高める。 ・本の貸し出しを推進する。	・基礎・基本を大切にし、家庭学習に毎日取り組む習慣が身に付いている。 ・学習の振り返りを大切にし、個々の学びを確認したり、次へ生かしたりできる時間を確保する。 ・児童の読書意欲を高める本をそろえ、図書室へ足を運ぶ機会を意図的に増やす。	・児童の意欲が高まるチャレンジプリントやタブレットの学習アプリなどに取り組めるようにした。 ・個々の習熟度に応じて、TTによる個別指導を行い、学習内容の定着を図った。 ・アンケートで「進んで読書をしている。」と答える児童は72．4%と目標を達成できなかったが、前年度より18%ポイントが上がった。読み聞かせやすがたりなどの図書イベント、新しい図書の購入などの効果によると考えられる。さらなる読書推進への工夫が必要である。	・教科・領域の横断的な単元を構成し、関連読書を進める。読書への課題に対し、興味深い図書の選定や環境整備やイベントの企画など、その都度対応しているが、読書ばなれが進んでいる。読書の時間を意図的に設定し、読書の楽しさを味わう機会をつくりたい。 ・ICTの効果的な活用場面を研究し、個別最適な学びと協働的な学びの場を意図的に設定し、児童が主体的に学ぶ力を育む。学習アプリでの個別学習に対する評価の工夫を行いたい。